

004 TICA

題名	作者	コメント	コメコメ
君の名残を (宝島社)	浅倉卓弥	幼馴染みの高校生、白石友恵と原口武蔵は、下校途中、忽然と姿を消してしまう。二人が目覚めたそこは平安末期、動乱の前夜だった……。『友恵』は巴御前『武蔵』は武蔵坊弁慶だったってわけ。もう一人、友達の弟もいなくなったのに、そちらには焦点を殆ど当てず。歴史小説と思って読んだほうがいい話でした。	
ガール (講談社文庫)	奥田英朗	頑張るOLたちが主役の短編集。働いている女性が読むと共感するところが沢山あるんだろおなあと読んでました。	ヘンテコ伊良部とも、ストイック九野刑事とも全く違ったタイプの短編集。
マドンナ (講談社文庫)	〃	中学生の初恋のような感情を部下に抱いてしまった中間管理職や、上司がアメリカナイズされた女性となったことに戸惑う体育系サラリーマンなど、おぢさんたちの短編集。私は、働く女よりおぢさんに近くなってるかも。	
孤宿の人 一上下巻一 (新人物往来社)	宮部みゆき	幕府の罪人、加賀が流されてきた讃岐の丸海藩。加賀が幽閉されている屋敷に下女として住み込むことになった10歳の少女ほう。悪霊と恐れられた加賀とほうの触れあい。 宮部作品にしては珍しいタイプだと思う。話の流れが遅かったし、人が殺されすぎ。加賀は実在の人物をモデルにしているが、それを歴史小説にしないで感動のある作品に出来る。『ほう』から『方』へそして『宝』と名前を変えたところでは泣きました。この時代のせいかな宮部みゆきのおかげか、子どもがとっても純粹であることが素直に受け止められる。	孤宿って言葉は造語なんですか？